

【FdData 中間期末：中学歴史：室町時代】

[農業の発達]

[問題](2 学期中間)

()にあてはまる語句を語群から選べ。

室町時代になると、農業が発達し、二毛作が広まるなど、収穫が増えた。麻や桑、藍、茶の栽培とともに、16世紀には(①)の栽培も始まった。手工業では、京都の(②)や博多の絹織物、(③)や農具をつくる鍛冶・鋳物業がさかんになった。

(語群)[刀 米 綿 西陣]

[解答]① 綿 ② 西陣 ③ 刀

[解説]

農業生産性の向上：二毛作，肥料，水車，牛馬耕
商品作物：綿の栽培が始まった 麻，桑，藍，茶

鎌倉時代後期から室町時代にかけて、^{ひりょう}肥料の普及^{ふきゅう}，水車を使ったかんがい，牛馬を使った耕作などによって、農業の生産性が向上した。また、麻や^{あさ}桑、藍、茶の栽培とともに、16世紀(室町末期～^{くわ}戦国時代)には綿などの商品作物の栽培も始まっ

た。手工業では、京都の西陣や博多の絹織物、刀や農具をつくる鍛冶・^{いもの}鑄物業がさかんになった。

[問題](前期期末)

室町時代にさかんに作られた商品作物を1つあげなさい。

[解答]麻(綿, 桑, 藍, 茶)

[問題](前期期末)

16世紀以降、人々の服装が簡素で動きやすいものになっていったが、それは何という作物の栽培が広がったためですか。

[解答]綿

[問題](前期中間)

室町時代につくられた商品作物を2つあげ、その作物がどのようなことに使われたのかを、例にならって書きなさい。

例) ベにばな(紅色の染料や口紅)

[解答]藍(染め物の染料), 綿(綿織物, 綿布)

[問題](1 学期中間)

室町時代の産業や社会の様子としてあてはまるものを、次のア～カから 3 つ選べ。

- ア 種もみを直接まくじかまきにかわって、田植えが広く行われるようになった。
- イ 商人や職人は座とよばれる同業組合をつくり、公家や寺社に納金・労働奉仕などをするかわりに、仕入れや販売の独占を認めてもらった。
- ウ 手工業の原料などとして、麻・桑・藍のほかに綿の栽培も行われるようになった。
- エ 農民は、調・庸などの税を都まで運ばなければならなかった。
- オ 月 3 回であった定期市が、月 6 回開かれるようになった。
- カ 地方の市では、稲や布などが、主に貨幣のかわりに使われていた。

[解答]イ，ウ，オ

[解説]

アは誤り。田^{たう}植えはすでに弥生時代^{やよい}に始まっていた。イ，ウは正しい。エは奈良時代前後の時代であるので、誤りである。オは正しい。鎌倉時代の定期市は月に 3 回であったが、室町時代には月に 6 回になった。カは明らかに誤り。

◆社会歴史の各ファイルへのリンク

<http://www.fdtype.com/dp/sr2/index.html>

◆FdData 中間期末の特徴(QandA 方式)

http://www.fdtype.com/dp/qanda_k.html

◆製品版(パソコン Word 文書：印刷・編集用)
の価格・購入方法

<http://www.fdtype.com/dp/seihin.html>

※ iPhone でリンク先が開かない場合は、
「iBooks」を開いてリンクをタップください。

【Fd 教材開発】 Mail : info2@fdtype.com